

重層的支援体制整備事業がはじまり3年目となりました

重層的支援体制整備事業が本格実施となり、3年目を迎えました。
重層事業とは、「属性を問わない相談支援(断らない相談)」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの支援と、これらを支える「アウトリーチ等を通じた継続的支援」「多機関協働」を合わせた、計5つの事業を一体的に展開する取り組みです。

川口市では、この5つの事業の中でも特に「地域づくり事業」を重層事業の基盤と位置づけ、注力しています。現在、「高齢」「障害」「子ども」「生活困窮」といった各分野で地域づくりに取り組む57機関が、専門分野の枠を超え、世代や属性を問わず誰もが利用できる居場所づくりやイベントの開催に励んでいます。

福祉相談支援担当では、こうした世代・属性を超えた「地域づくり」を積極的に応援しています。「地域づくり通信」では、そうした居場所やイベントの情報をご紹介していますが、市のホームページでも多数の情報を掲載しております。ぜひあわせてご覧ください。



地域づくり応援します
川口市ホームページ

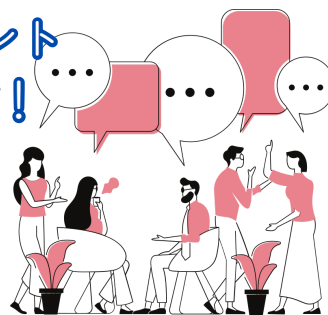


大募集！！



世代属性問わないイベント
居場所取材に行きます！

地域に、世代属性を問わないイベント居場所はありませんか？ぜひ、ご連絡ください。地域づくりコーディネーターが取材に伺います！！



～つながり ささえあい かわぐちをめざして～

Vol.1

地域づくり通信

2026年7月



令和6年度より、重層的支援体制整備事業が本格実施となり3年目となりました。これまで、自分たちが管轄する世代向けの取り組みのみとなっていたが、今は、世代・属性を問わない地域づくりをすることが可能となりました。世代・属性を問わない居場所づくり、地域づくりしてみませんか？福祉総務課より地域づくり関係機関の取り組みをご紹介します。

第3弾！赤ちゃん・ママとの多世代交流 ドレスアップカホン

令和8年2月10日、子育てひろばポッポ♡にて、親子向けイベント「ドレスアップカホンで遊ぼう」が開催されました。この企画は、令和6年の「地域づくりトークセッション」で講師の田中充さんが語った「音楽で世代を超えてつながりたい」という想いから生まれた体験会の第3弾(鳩まつり、鳩ヶ谷駅コンコースに続く開催)です。カホン(Cajón)は、南米ペルー発祥の箱型打楽器です。木製の箱に、元美術教師である田中さんが絵を施しています。これひとつでドラムセットのような多様な音色をたたき出すことができます。

当日は0～3歳児の親子16組が参加しました。田中ご夫妻の歌や演奏に合わせて、『アンパンマンのマーチ』『パプリカ』、オリジナル曲『東京サンタ』などの演奏を楽しみました。

つかまり立ちをしながら音の振動を楽しむ赤ちゃんや、ドレスアップされたカホンの絵に興味津々で叩く子どもたち。大きな音に泣く子もおらず、みんなノリノリで叩いたり踊ったりと大賑わいでした！

叩くだけで誰でも参加できるのがカホンの魅力。これからも音楽を通じて、赤ちゃんからお年寄りまで地域の輪や交流が広がってほしいと考えます。



川口市役所 福祉総務課
福祉相談支援担当



☎ 048-259-7947 ☎ 048-251-1877

✉ 083.01040@city.kawaguchi.saitama.jp

重層的支援体制整備事業 地域づくり通信





手話を通して笑顔の交流！多世代合同「手話講座」

令和7年12月24日（水）、「南平たたら荘」にて「手話講座」が開催されました。講座は南平・南平みなみ地域包括支援センター、南平たたら荘、南平児童センターが共催し、60歳以上の方が利用できる南平福祉会館内にある「南平たたら荘」の利用者だけでなく、同建物内にある「南平児童センター」を利用する小学生も参加し、多世代合同の講座として実施されました。当日は、たたら荘の来所者12名、小学生9名、ボランティア3名の計24名が参加し、講師には川口市手話サークルから4名の方をお招きしました。

講座ではまず、講師の方から「耳が聞こえないとはどういうことか」についてお話いただきました。「人を呼ぶとき」「朝起きるとき」「外出時に危険を知らせるとき」など、普段自分たちが行っている行動が、聴覚障害のある方にとってどのように伝わるのか（あるいは伝わらないのか）を学びました。続いての実技では、「自分の名前」や「気持ちの伝え方」、「挨拶」「拍手の仕方」といった身近な手話を教わり、参加者同士で手話を使ったコミュニケーションに挑戦しました。さらに、誰もが知っている『サザエさん』の曲に合わせた手話合唱も行い、最後にはクリスマスプレゼントが贈られて大盛況のうちに終了しました。

高齢者と子どもと一緒に受講することで、単に手話を覚えるだけでなく、普段接する機会の少ない世代同士が手話を教え合ったり、手話を読み解くために相手をしっかり見つめ合ったりと、お互いを理解し顔なじみになる貴重なきっかけとなったと感じます。今後、地域で再会した際にも、自然と声を掛け合えるような温かい関係につながっていくことを願っています。



世代を超えて白熱！「ぼっちゃたいかい」

令和8年3月30日、児童センターあすばるにて、戸塚地域包括支援センターと戸塚西地域包括支援センター、児童センターあすばるの共催による「ボッチャ大会」が開催されました。

当日は児童センターを利用する子どもたち20名と高齢者8名が参加し、世代を超えた混合チームを結成して対戦を行いました。

ボッチャは年齢や障害の有無に関わらず楽しめる競技です。今回参加された高齢者の皆様は全員がボッチャ経験者で、中にはボッチャ好きが高じて個人で用具を購入された方もいらっしゃいました。一方、子どもたちの半数ほどはボッチャの存在を知っていたものの、実際に体験したことのある子はごくわずかでした。そのため練習からスタートしましたが、スタッフだけでなく、高齢者のメンバーが率先してルールや投げ方を教えてくださる姿が見られました。初めてで最初は戸惑っていた子どもたちも、対戦や観戦を重ねるうちに理解を深め、大会の後半には白熱した試合を繰り広げていました。大会の最後には、高齢者と子どもたちの代表から感想を聞くことができました。「ボッチャが楽しかった」「また一緒にプレイしたい」「機会があればひまな声をかけてほしい」など、次回開催を期待する温かい声が寄せられたことから、5月より月に1回高齢者と児童と保護者を対象とした「ボッチャ交流会」が開催されるようになりました。

初めて顔を合わせる間柄であっても、ゲームを通して自然と距離を縮められるボッチャは、非常に有意義な競技であると実感しました。近年、高齢分野ではボッチャの人气が高まっており、各地域包括支援センターでも取り組みが増えつつあります。「大会を検討したい」という声も聞かれており、このような競技を通じた多世代交流の輪が、今後他の地区にも広がっていくことを期待しています。

